

今年の松葉屋は『山と森と木と人々の暮らし』をテーマに、いろいろな方向をさぐってみたい。

ものをつくることは、いろんな意味で『命を使わせてもらう』こと。

(素材だって、エネルギーだって)

『ほんもの、ほんとうのものづくり』をするために、気づいて、伝えて、体験してもらいたいことがあります。

ものをつくる痛みを知り、 ものを大切にすることを 持ち続けていくこと

木を切り、その命をもらい、100年、200年と使い続ける家具を松葉屋は作っている。

一方でたくさんを使い捨てられる家具がある。

家具に限らず命を終えていくもの、終えさせられたものの

行き先はどうなっているのだろうか？

私たちは知らなすぎないか。

まずは一歩、ずっと気になっていたごみの処理、リサイクルの現場、長野市清掃センターをたずねてみた。



ゴミピットに次々と運び込まれる「私たちのゴミ」



3,800tの可燃ごみを処理できる「リニアット」



写真左/長野市環境部 清掃センター村井さん
写真右/長野市環境部 生活環境課 上原さん

などの作業を行っています。

善五郎 ■ 私たちは日々どのくらいのごみを出しているのでしょうか？ またごみにかかる費用も教えてください。

長野市環境部 上原さん(以下・上原) ■ 23年度は家庭ゴミ1人あたり1日676グラム、年間で248キロ出しています。そのゴミを処理するのに、年間1人あたり8,015円(22年度)かかっています。長野市の総額では約31億円になりますね。

善五郎 ■ それはすごい額ですね。

上原 ■ 平成21年からは可燃・不燃ゴミの有料化を始めました。これにより、20年度と24年度を比べると、事業系、家庭系を合わせたゴミは6.6%減となりました。が、23年度と24年度を見ると若干ですが増えています。これは家庭というより事業系のゴミの増加で、景気動向に左右されているのかもしれない。

善五郎 ■ 有料化した意味はあったのですね。

村井 ■ では実際にセンター内へ行き、まずは収集車で集められたゴミを投入する。ゴミピットを上から見てみましょう。

善五郎 ■ かなり高いですね。

村井 ■ ここでクレーンを操縦し、下に見えるピット内のゴミを焼却炉へ運んでいきます。畳や絨毯、家具など大きなものは横にある破砕機で砕いてからゴミピットに入れていきます。

善五郎 ■ すごい大きなピットですが…。

村井 ■ 容量3,800tという大きさですが、それでも約2週間で満杯になります。

善五郎 ■ 先日、家具を買われたお客様に「これ、もう使わないから捨てておいてくれないか」と学習機の処分を頼まれたんです。学習機は小中高の12年も使うとおしまいと思われているんですね。かなり傷んでいたため、仕方がないのでプラスチックや蛍光灯など、いろいろ分別しながらある程度の大きさになるまで切って処分しました。そこでふつと考えたんです。収集場所に粗大ゴミのシールを貼って出せばそれで終わりというのは、あまりにも物に対して無頓着すぎたなど。そんな思いで今日はやって来ました。

清掃センター村井さん(以下・村井) ■ ありがとうございます。それでしたら現場を見ていただくのが一番だと思います。またセンター内にある「リサイクルプラザ」では家具を無料で引き取り、再生後に販売するということがあります。
善五郎 ■ ではまず、ゴミ収集の流れから教えてくださいませんか？
村井 ■ 可燃ゴミや不燃ゴミ、缶類など8つに分別されたゴミを収集・運搬し、可燃ゴミは焼却します。ペットボトルやプラスチックなど資源として再利用できるものは、再商品化のための選別や梱包





山と森と木と人々のくらし



24 時間態勢でピット内のごみを焼却炉へ運ぶクレーンを操作する操作室



プラゴミを手で選別



巨大なゴミピットを上からのぞく

しまいます。

善五郎 ■ 2週間ですか？それはすごい。24時間ずっと稼働しているんですか？

村井 ■ 一度、焼却炉に火が入ると消さない限り、再度大きなエネルギーを使うことなく燃え続けるので、24時間運転の方が効率的なんです。

善五郎 ■ なるほど、自分の力でずっと燃え続けているんですね。

村井 ■ 先ほど室内が涼しいと言われていましたが、施設の冷房も暖房も焼却熱を利用して使っています。焼却熱を使った自家発電は1時間でおよそ1,450ワットの発電を行っており、夜間は売電もしています。あと清掃センターの隣にある温水プール「サンマリン」なのも余熱を利用した施設になっています。

善五郎 ■ 焼却熱を有効利用しているんですね。

ですね。

村井 ■ 次は施設内にある「リサイクルプラザ」をご案内します。こちらに持ち込まれた家具や自転車などは簡単に洗浄修理して安価で販売しています。

善五郎 ■ 学習机もあるんですね。

リサイクルプラザ藤田さん(以下:藤田) ■ はい。最近はアパートやマンションに備え付けの家具が増えたことから不要になった大型家具を持ち込む人が増えています。そんな中で桐ダンスなどの需要は増えてきているようです。

善五郎 ■ 桐ダンスですか。

藤田 ■ また年間45回ほどリサイクル講座も開いています。最近は猫はんでんや布ぞうり製作などが人気で、申し込みが多く、抽選でなんでもありました。

善五郎 ■ ただ燃やすだけではなく、分別しているいろいろなものをリサイクルしているということがよくわかりました。

村井 ■ ゴみを減らすには分別もそうですが、安いからとか、タダだからといって買わない、もらわないことも大事なことです。

善五郎 ■ 長く使える物が増えれば当然ゴミの量も減ってきますよね。燃やせばエネルギーになるなら、それはそれでいいじゃないかというのではなく、いかに購入された方に長く使っていただくかを考えていかなければなりませんね。

村井 ■ また可燃ゴミの約40%は生ゴミと言われています。それをどう減らしていくか。それによってゴミの総量はだいぶ変わってくると思います。

善五郎 ■ 生ゴミだけで40%ですか。それ

は多いですね。

村井 ■ 日本には昔から物を大切に長く使うという文化がありました。しかし経済の発展とともに、大量生産大量消費という流れになり、物を使い捨てにすることが増えたと感じます。経済的には大量消費の方が潤うのかもしれませんが、ゴミ問題は避けては通れません。合い言葉に、リデュース(ゴミの発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクルというのがあります。まずは、ゴミを出さないことです。また物を大切に使うということ、人を大切にすることにもつながってくるのではないのでしょうか。

善五郎 ■ そうですね。家具も長く使うことを前提に考えて作り、リペアなどして何世代にもわたって使ってもらえれば幸せですよ。ゴミをあまり出さないのももちろん、処分されていく物の痛みを知り、物を大切にすることを続けていくことが、ゴミの削減にもつながるような気がします。本日はありがとうございました。



バリバリバリと巨大なワニのような機械に飲み込まれる家具たち



自転車や車荷、古本をリサイクルセンターには様々なリサイクル品が並び、リサイクルセンターでは藤田さんに紹介してもらいました

取材協力
 長野市環境部 生活環境課
 〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613 Tel 026-224-7635 Fax 026-224-5108
 長野市環境部 清掃センター
 〒381-0026 長野市松岡2-42-1 Tel 026-221-5316 Fax 026-221-5319



松葉屋の土蔵には、糸の会さん、十糸さん、森田さんの手織、草木染めのストールや、手紡ぎのオーガニックコットンで編んだくつ下やベビーソックス、コースターや、夏の糸、手紡ぎの綿糸や手染めた麻の糸もなりました。2階には、木のボンボンのワークショップをしてくれた相澤さんのリボンやブーケ、ボンボンやオブジェがならび、カンナくずだったとはおもえないキリリとした作品にトキメキました。

vol.1 マルクトプラッツ 夏の糸と木のリボン こんな風でした！



ワークショップ その1 収穫した綿の種をとってふわふわにして手で紡ぐ



糸が好き、織ること、編むこと、紡ぐことが好き、といった皆さんが集まって、一緒に手紡ぎ体験。教えてくださったのは「糸の会」の蒔田さん。糸が切れてばかりの私たちをよそに、蒔田さんの手からは魔法のように、糸がどんどん紡がれていくのでした。すばらしい。いつか私もそうなる！と夢中になってしまっていました。

ワークショップ その2 木のカンナくずでボンボンをつくる



今まで「カンナくず = すてるもの」だったのに、こんなすてきなりボンボンやブーケになる。そのことにこうして気づいた相澤さんってすごいですね。木の感触と香りをたのしみながら、もくもくとつくります。こんどはこんな風につくってみたい…と気持ちが次につながりました。



お祭りだから
らくがきやせて
もろくたよ



松葉屋通信 vol.25

発行所 松葉屋家具店+くらし道具学研究所

〒380-0841
長野市大門町45
TEL 026-232-2346
FAX 026-237-4558
since1833@matubaya-kagu.com
(水曜定休)

発行日 2013年8月28日

© 松葉屋家具店+くらし道具学研究所
Copyright ©2010 Matubayakaguten Co., Ltd.
All rights reserved.



楠
クスノキ
クスノキ科ニッケイ属

松葉屋から森の香りの贈りもの。
今回は楠、柑きつ系のようなさわやかな香りにローズウッド、ローレル、ローズマリー、ハッカ油をブレンドして、たなこころさんにつくってもらいました。
松葉屋の一枚板の中にも楠があります。鼻を近づけると香ります。
香りできがしてみてください。